第４　第３期計画の基本的な考え方

がん対策基本法は、がんが国民の生命と健康にとって重大な問題であるとの現状認識のもと、がん対策を総合的かつ計画的に推進することを目的とし、また、がん患者の意向を十分尊重したがん医療を提供する体制の整備が基本理念のひとつに定められています。

奈良県がん対策推進条例では、がん対策基本法と同様の現状認識のもと、県民とともに総合的ながん対策を推進することを目的としています。

がん対策基本法や奈良県がん対策推進条例の趣旨と、これまでの県のがん対策に関する目標等と整合性を図りつつ、第３期計画の基本的な考え方を次のとおりとします。

１　基本方針

（１）すべてのがん患者とその家族を含めた県民の視点に立ったがん対策の推進

（２）がん患者を含めた県民、医療従事者、関係団体、行政等が一体となった、総合的かつ計画的ながん対策の実施

（３）全体目標とそれを達成するための分野別施策の目標を、期間を定め設定

２　基本理念

基本理念

『がんにならない、がんになっても安心できる奈良県』

県では、がん対策推進条例の趣旨をふまえ、「がんにならない、がんになっても安心できる奈良県」を基本理念に定めています。

すなわち、

- がん患者を含めた県民が、進行・再発といった様々ながんの病態に応じて、安心・納得できるがん医療を受けられるようにすること
- 県民一人ひとりが、がんに関する正しい知識をもち、がんの予防に注意を払うことによってできるだけがんにならないこと
- 県民一人ひとりが、積極的にがん検診を受け、早期発見・早期治療によってがんによる死亡を防ぐこと
- がん患者・経験者が、がんと向き合って暮らしていける地域社会を実現すること

を、将来あるべき姿として、がん対策の基本理念を定めており、その実現のために、がん対策推進計画を策定しています。

３　全体目標

基本理念の実現に向けて、次の３つの目標を計画の全体目標として設定し、今後６年間（平成35 年度まで）の取組を進めます。また、県民に分かりやすく対策の評価・進捗状況を提示するため、すべての全体目標に指標を設定します。

１　がんにならない　がんで若い人が亡くならない（がん予防、早期発見・早世防止）
２　すべてのがん患者とその家族の苦痛が軽減され、安心、納得のいく療養生活を送ることができる
３　すべての県民ががんを知り、がんと向き合い、希望を持って暮らせる地域共生社会をつくる

１　がんにならない　がんで若い人が亡くならない（がん予防、早期発見・早世防止）

高齢になるほどがんの罹患のリスクは高くなり、生涯のうちに、約２人に１人ががんに罹患すると推計されています。しかし、がん予防や早期発見の取組等を進めることで、若くしてがんになる、また、がんで亡くなることがないように、「がんにならない　がんで若い人が亡くならない」を目標とします。

第２期計画の指標である、「がんの 75 歳未満年齢調整死亡率　20%減少」は、目標達成（推計）し、死亡減少率は全国一となりましたが、平成 27 年のがんの 75 歳未満年齢調整死亡率が最も低い長野県（62.0）に比べて 10.3 ポイントも上回っています。

そこで、第３期計画では、「がんで亡くならない県　日本一」をめざし、12 年後の死亡率 27%減少を目標に設定します（参考）。

【目標指標】

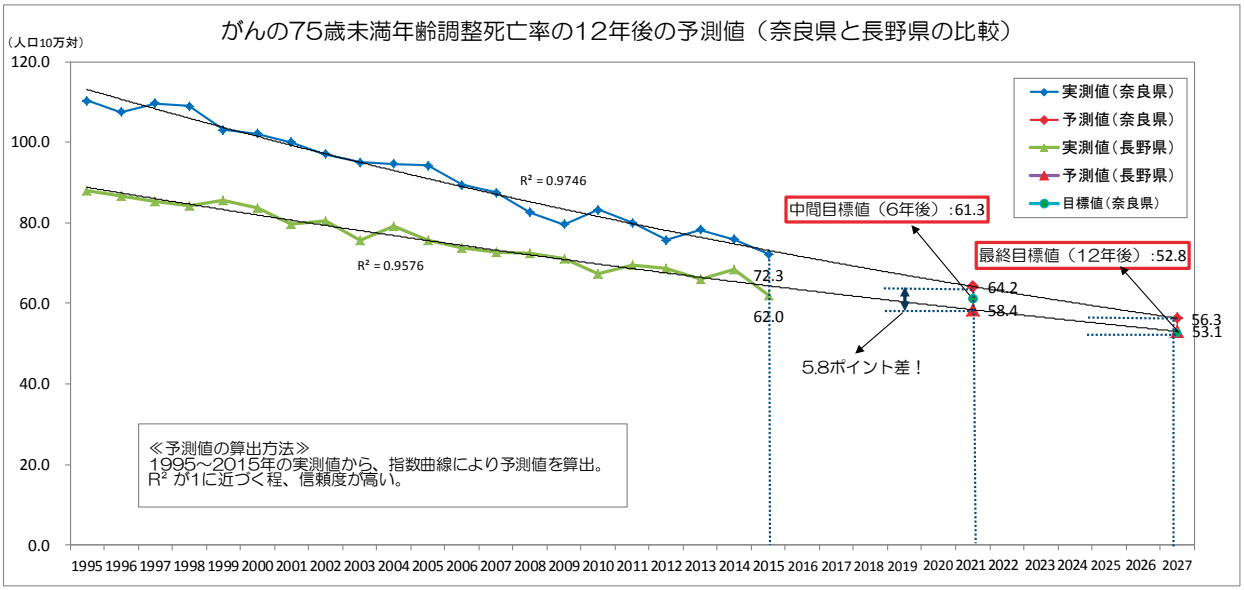
がんで亡くならない県　日本一
がんの 75 歳未満年齢調整死亡率　27%減少
平成 27（2015）年：72.3　→　平成 39（2027）年：52.8
（出典：人口動態統計）

〔参考〕第3期奈良県がん対策推進計画の死亡率の目標設定の考え方

◆死亡率（2015年を基準に、12年後の2027年の目標値を設定）

●目標値　「がんで亡くならない県、日本一」を目指し
75歳未満年齢調整死亡率　27%減少

がん死亡率が日本一低い長野県と比較すると・・・
12年後（2027年）の予測値は、奈良県　56.3
長野県　53.1　⇒ 3.2 ポイント差！
（長野県に追いつくには26.6%減少が必要）



2　すべてのがん患者とその家族の苦痛が軽減され、安心、納得のいく療養生活を送ることができる

がん患者の多くは、疼痛等の身体的な苦痛だけでなく、がんと診断された時から不安や抑うつ等の精神心理的な苦痛を抱えています。また、その家族も、がん患者と同様に様々な苦痛を抱えています。

こうしたことから、第２期計画に引き続き、がんと診断された時から在宅療養までの切れ目なく質の高い緩和ケアの提供や、がん医療の更なる充実、様々ながんに関する相談支援や情報提供等により、「すべてのがん患者とその家族の苦痛が軽減され、安心、納得のいく療養生活を送ることができる」ことを目標とします。

【指標】　（出典　ならのがんに関する患者意識調査）

指標項目	基準値（H29）	目標
①現在の心身の状態についてからだの苦痛（痛み）があると回答のあった人の割合	17.4%	減少
②現在の心身の状態についてからだの苦痛（痛み以外の症状）があると回答のあった割合	33.8%	減少
③現在の心身の状態について気持ちがつらいと回答のあった人の割合	30.5%	減少
④経済的なことや就労のことなど、生活上の心配があると回答のあった人の割合	27.5%	減少
⑤これまで受けた治療に納得していると回答のあった人の割合	88.1%	増加
⑥がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの支援によって現在は軽減されたと回答のあった人の割合	36.4%	増加

３　すべての県民ががんを知り、がんと向き合い、希望を持って暮らせる地域共生社会をつくる

がん医療の進歩とともに、がん患者・経験者（サバイバー）においては、長期生存し、社会で活躍している人が多くなっていますが、その一方で、多くの方が、社会とのつながりを失うことに対する不安や、仕事と治療の両立の困難さなど、社会的苦痛を抱えています。

また、がん患者自身が「がん」であることを周囲に話すことができなかったり、「がん」に対する偏見や、周囲から不必要に気を遣われていると感じるなど、がん患者が社会から孤立を感じていることも指摘されています。

こうしたことから、第３期計画では、すべての県民ががんに対する正しい知識を持つことで「がん」に対する偏見をなくし、がん患者やその家族を地域社会全体で支える取組を進めることにより、「すべての県民ががんを知り、がんと向き合い、希望を持って暮らせる地域共生社会をつくる」ことを目標とします。

【指標】　（出典　ならのがんに関する患者意識調査/県民アンケート）

指標項目	基準値（H29）	目標
①現在の日本は、がん治療を受けながら、働き続けられる環境だと思うと回答のあった人の割合	29.1%	増加
②この１年間に自らの健康づくりのためにしたこと ・がん検診を受ける ・たばこを吸わない ・塩分を取り過ぎない	 31.5% 55.9% 48.4%	増加